

天王寺動物園の今後の方向性  
(天王寺動物園基本構想)

平成27年8月  
大阪市建設局

(目次)

1. 検討背景と経緯	2
2. 天王寺動物園の意義と役割	3
(1)天王寺動物園の意義と役割	3
ア. 3視点からの考察	3
イ. 市民が求める動物園	4
ウ. 動物園の使命	5
エ. 動物園が果たすべき機能・役割	6
オ. 将来の動物園像	7
(2)天王寺動物園の顧客ターゲット	8
3. 天王寺動物園の今後の方針	9
(1)提供するサービスに関する指針	9
(2)園内のエリア構成の考え方	10
(3)動物園運営の考え方	10
(4)コレクション計画について	11
ア. 現状の課題とコレクション計画の必要性	11
イ. 計画策定において考慮すべき点	12
ウ. コレクション計画	14

## 天王寺動物園の今後の方向性 (天王寺動物園基本構想)

平成27年8月  
大阪市建設局

### 1. 検討背景と経緯

天王寺動物園は、天王寺という交通の便の良い立地の中、大正4年に創設されて以降、100年の歴史を刻んでいる。数次の動物園整備計画により獣舎等の整備が進められてきたところであるが、近年では、平成7年にとりまとめた「ZOO21計画」に基づき、「生態的展示」というコンセプトの下、爬虫類生態館アイファーをはじめ、カバ舎、サイ舎、アフリカサバンナゾーン、アジアの熱帯雨林ゾーン(アジアゾウ舎)の整備が進められてきたところである。しかし、近年は、同計画に基づく整備は、大阪市の財政難、動物園の経営努力不足などもあって進められておらず、また、来園者については、徐々に減少傾向を見せ、平成25年度には約116万人という、平成に入ってから最低の来園者数を記録するなど、動物園事業が行き詰まりつつあり、大都市大阪にふさわしい魅力あふれる動物園を目指し、徹底した改革が求められてきたところである。

大阪市役所では、市役所職員による検討チームを設けて動物園のあり方の検討を行い、平成25年9月に同チームとしての中間報告書を取りまとめている。そこでは、各種データや内外からの意見を分析した上で、現在の課題として「利用者目線の欠如」「老朽施設と硬直経営」「専門機能の低下」を指摘するとともに、時代や社会の変化と園の実情に即し、具体性を伴った使命と戦略の再構築が必要と提言している。このような検討も踏まえて、天王寺動物園では、「ZOO21計画」をリセットして、新たな基本計画を策定することとしてきたところである。

平成26年7月から、新計画の策定等を担当業務とする「動物園改革担当部長」のポストを設置し、同ポストの人材については外部からの公募により人材を充てた。また、平成26年10月から平成27年3月にかけて、飼育動物のコレクションプランを検討する有識者会議を設けて、飼育動物の選択と集中について検討を進めてきた。この議論に併せて、コレクションの基礎となる、動物園の今後の方向性についても意見を求め審議をしてきたところである。

また、平成27年2月から3月にかけては、参加者の公募を行って約40名から成る市民会議「ZOO Friends 会議」を設置し、3回にわたってディスカッションを行い、市民が考える動物園の将来像の提案を取りまとめた。

これらの検討を踏まえて、天王寺動物園の新たな基本計画の基礎となる「基本構想」を定めることとする。なお、本構想を踏まえた天王寺動物園の新たな基本計画を、平成27年度に委託調査を行った上で、策定する予定である。

## 2. 天王寺動物園の意義と役割

動物園の目的については、一般的には、(1)レクリエーション、(2)教育(環境教育)、(3)種の保存、(4)調査研究と整理することが定式化されている(参照:(公社)日本動物園水族館協会ウェブサイト)。しかし、これはあくまでも一般論であって、これを公立動物園たる天王寺動物園に単純に適用するべきではない。むしろ、天王寺動物園の置かれている状況や公立動物園としての意義や役割も踏まえて、改めて天王寺動物園のあり方を検討する必要がある。

### (1)天王寺動物園の意義と役割

#### ア. 3視点からの考察

3つの視点(①利用者にとっての動物園、②大阪市にとっての動物園、③社会にとっての動物園)から、動物園が果たしている役割を考察した。

- ① 利用者にとっての動物園としては、都市型の動物園という特徴も踏まえれば、以下のような位置づけが考えられる。

お手軽に行ける近距離レジャーの場:大切な人と楽しみ、思い出を創る施設

生き物や自然と触れ合う場:リアルな体験・体感を提供する施設

癒しの場:都心の緑地として癒しを提供する施設

賑わいの場:都市全体の魅力向上と活性化に貢献する施設

知的好奇心を刺激する学びの場:知ることの喜びを提供する施設

- ② 大阪市にとっての動物園としては、以下のような位置づけが考えられる。

「大阪都市魅力創造戦略」の重点エリアである「天王寺・阿倍野地区」の核となる施設

大阪で唯一の大規模公立動物園施設

都心に位置し、利便性の高い施設

年間100万人以上が訪れる市内有数の集客施設

100年の歴史と伝統を誇る施設

大阪人なら誰しも一度は訪れたことのある施設

幼児・児童が環境や動物について学べる施設

- ③ 社会にとっての動物園としては、以下のような役割が考えられる。

人と動物との関わりを考える場

生態系や自然環境を考える場

野生動物を公共的に確保・維持する場

希少動物を保全する場

以上のように、動物園に多様な意義がある中で、天王寺動物園としては、多様な利用者ニーズと社会的・行政的なニーズとの双方を捉えた目標設定をしていく必要がある。

## イ. 市民が求める動物園

ズーフレンズ会議のグループ討議において提示された動物園将来像

市民の立場で動物園の未来について考えていただくことを目的に募集したズーフレンズのワークショップでは天王寺動物園の将来像についてのグループ討議が行われ、以下のようなキャッチフレーズが取りまとめられた。(参考資料 1)

### A おもしろい動物園

- 子供／若者／シニアが楽しめる
- 大阪らしい面白さ
- 知的好奇心が刺激される

↓

おもしろい、あきない、金がない。でも知恵がある動物園。

### B 共に生きる動物園～共獣コミュニティ

- 動物と人との共生
- 育てる、住む、ふれあう

↓

共に笑い、共に学び、共にいやされ、共に生き続ける、みんなお隣さんになれる動物園。

### C あきない動物縁(園)

- 商い
- 飽きない
- これらを繋ぐ「縁」

↓

なるほど、ファンと儲けて商いをアピール。そこから共に育てるナニワなみな来る(ミラクル)動物園・縁・〇(円)。

### D 大人も子供も動物博士になれる動物園

- 時空を超えた地球レベルでの展示
- 裏側を知る、職業体験
- 動物園博士として認められる仕組み

↓

なんやかんや頑張っている大阪人の大阪人によるみんなのための動物園。

### E 動物中心の動物園～動物の生活に人間がオジャマする～

- 動物本来の食行動／住環境／時間軸
- 動物と人間の共存
- 市民が運営に参加

↓

人も動物も真ん中。ありのまま笑顔の参加型公園。

#### F 都会のオアシス～癒される動物園

- 五感すべてが癒される(見、聴、触、嗅、味、体感)
- ネーミングライツ／ふるさと納税／付加価値

また、これらの議論の共通課題として、

天王寺動物園がしっかり、未来にも残ってもらうためには、自立=収益をあげることが大切と指摘された。

#### ウ. 動物園の使命

天王寺動物園の使命については、メディアとしての動物園の特性を踏まえつつ、以下の3点に整理した。

使命1: お客様に対して、「ライブ」でこそ伝えられる動物の魅力を発信し、楽しみながら野生動物や家畜などの動物についての理解や自然環境や生物の多様性への気づきを与える。

使命2: 確かな専門能力に基づき、種の保存にも貢献しつつ、持続可能なカタチで動物園事業を展開する。

使命3: 将来的には、野生生物の生息域内での保全にも貢献する。

#### 使命1についての解説

動物園のメインのコンテンツは動物であり、それが眼前で生きて動いていることが動物園の最大の特徴である。生きた動物の展示を通じて為すべきは、お客様に楽しんでいただくことと、楽しみながらも大事なことを伝えることである。

#### 使命2についての解説

生きた動物を健康的に飼育し展示することは、高い専門能力を要するため、この能力を継続的に維持していく必要がある。また、生きた動物は、いずれ必ず死を迎えるのであり、動物のコレクションを継続的に維持していくためには、他の動物園とも繁殖を行う必要があり、また、交換等による動物の入手も必要となる。持続可能性を確保しつつ、大阪の人たちに動物園というサービスを継続的に提供し続けることが重要である。

#### 使命3についての解説

動物園では、現在も希少動物の繁殖協力等を通じて生息域外での保全に貢献してきているが、動物園の使命を考える際には、海外の先進的な動物園が実施しているように、生息域内の保全への貢献も視野に入れておく必要がある。一方で、これは長期的な課題であることから、「将来的には」という文言を入れている。

## エ. 動物園が果たすべき機能・役割

天王寺動物園が果たすべき機能・役割については、「近距離レジャー機能」「社会教育機能」「都市魅力創造機能」の3点に整理した。

### ① 近距離レジャー機能

お手軽に行ける近距離レジャーとして、お客様に大切な人との思い出を紡ぐ機会を提供する。

#### (実施すべき事項)

- ・ 驚きを与えるような魅力的で満足度の高い動物展示を提供
- ・ 体験・体感できる活動を提供
- ・ ワクワク感のある快適な園内空間を提供
- ・ 都心の緑地として「癒し」のスペースを提供
- ・ お客様ニーズに応える良質な物販飲食等のサービスを提供
- ・ ホスピタリティの高い接遇を提供(委託先による接遇を含む) など

### ② 社会教育機能

ライブの動物や、リアルの体験・体感を通じて、自然や動物への理解や共感の機会を提供する。

#### (実施すべき事項)

- ・ レジャー目的のユーザーに対しても、動物園としてのメッセージを発信
- ・ メッセージの発信に当たっては、野生動物と家畜は峻別して発信する。
- ・ ふれあいサービスの拡充強化
- ・ 教育機関による利用ニーズに対応
- ・ 知的な好奇心を刺激し、知的な愉みを提供 など

### ③ 都市魅力創造機能

賑わいは賑わいを呼び、それが都市全体の魅力向上と活性化につながることから、動物園に賑わいを呼び込み、天王寺周辺のエリア全体を活性化する。

#### (実施すべき事項)

- ・ 利便性の高い立地を活かして、周辺エリアの各主体と協働しつつ、動物園とその周辺に賑わいを創出
- ・ 海外からの来園者への対応の充実(多言語化、日本産動物の展示の強化など) など

上記3点の機能・役割を果たすためには、そのための基盤整備が必要となる。よって、これを4点目に位置づけることとする。

#### ④ 基盤整備

魅力的な動物園を提供し続けるための基盤や能力を確保・維持する。

(実施すべき事項)

- 飼育、繁殖、獣医療等の技術やインフラの確保・維持
- 飼育動物の安定的な確保(動物園間の繁殖協力など)
- 他園の先進的な取り組みや野生の生息地の状況等を把握し、園内での活動の改善にフィードバック
- 学術機関との連携などによる専門能力向上 など

天王寺動物園においては、以上の4つの機能をバランスよく運営するものとする。

注:種の保存の位置づけについての解説

上記整理においては、一般論として語られる動物園の目的のうち、「種の保存」を大項目に入れていないが、この点について解説を加える。

市民の税金を投じて運営される公立動物園にとっては、基本的にその活動が市民に還元されることが重要となる。この観点から、単純に種の保存のみを目的とした事業は位置付けることが難しい。一方で、種の保存は、動物園業界共通の課題であり、種が保存されなければ、野生動物を飼育し展示するという業態の維持が不可能となる。動物園で飼育展示する動物の安定的な確保のためにも、動物園間の繁殖協力を通じた種の保存が必須となっている。また、繁殖個体との交換等による新たな飼育動物の入手という観点からも、動物の繁殖には力を入れていかななくてはならない。

よって、上記の整理においては、基盤整備の中に種の保存のための活動が含まれるという整理にしている。

#### オ. 将来の動物園像

上述のズーフレンズ会議の議論及び動物園の使命や役割を踏まえて、天王寺動物園が目指す将来像を次の4点にとりまとめた。

##### 1. 集い、つながり、参加する、都心のコミュニティ。みんなの「動物公園」

お昼休みにホッと癒されに来る。

学校や仕事帰りに立ち寄れば、よく知るあの人にもここで会える。

動物をきっかけに、見知らぬ人同士もつながり合える。

都会のど真ん中にある動物園だからこそ、特別な場所でなく、もっと日常の中にある場所へ。

##### 2. 大阪らしい笑いとお知恵があふれる、おもしろい、あきない動物園

動物園の元気は、大阪の元気だから。

子どもからお年寄りまでみんなで盛り上がる、大阪らしいユニークなアイデアをどんどんカタチに。

笑い声が絶えない、いつも大繁盛の動物園へ。

3. おとなも子どもも、いのちに学ぶ。ヒトを育てるいきものアカデミー

いのちの尊さ、やさしい心、やり遂げる喜び。

生き物を通じて、楽しみながら、生きて行く上で本当に大切なことを教えてくれる。

動物を育てるだけでなく、ヒトも育てる動物園へ。

4. ヒトも動物も、共に生きる仲間。いちばん動物に近づける動物園

動物の生活にもっとリアルに触れることで、動物の感じていることまで見えてくる。

動物と人間は、もっと分かりあえる。

地球で生まれた同じ仲間として、共に生きていく動物園へ。

(2)天王寺動物園の顧客ターゲット

天王寺動物園の来園者は、概ね三分の一が大阪市内から、三分の一が大阪府内(大阪市内を除く)から、三分の一が大阪府外から来園している。つまり、三分の二が大阪府内からの来園である。来園者層はファミリー層が多く、地元の動物園として愛されている。よって、これをメインの顧客と位置付ける。

少子化が進む中、子どもを中心としてファミリー層対象のビジネスの先行きは厳しいものがあるが、その一方で、天王寺動物園においても、平日の園内には海外からの観光客が目立つ。特に中国・韓国・台湾といった東アジアの国からと思われる来園者が多い。これらのことから考えて、伸びしろのある顧客層として、外国人を含む遠方からの観光客層を開拓する必要がある。

① メインターゲット

顧客層:日帰り圏内の住民(主に市内、府内)

来園スタイル:ファミリー、カップル、友人同士

戦略:リピーターの確保

② 今後開拓すべきターゲット

顧客層:外国人を含む観光客層

来園スタイル:グループやカップルで来園、動物園以外の観光施設にも周遊

戦略:利用者によるクチコミ、他施設との回遊性の向上

留意点:海外からの観光客については、きちんとした来園者データがないため、来園者調査の実施が不可欠



### 3. 天王寺動物園の今後の方針

#### (1) 提供するサービスに関する指針

前項での考察や市民討議に基づき設定した使命、機能、顧客ターゲットを踏まえ、動物園で提供している様々なサービスについて、それぞれの概括的な方針をまとめた。なお、これらのサービスの向上策については、今後策定する新たな基本計画の中で更に具体的に記載するものとする。

##### ① 動物飼育展示サービス

- メインコンテンツたる飼育動物を安定的に確保・維持する(動物園間での繁殖協力等により、種の保全にも貢献)
- 種数は絞りつつ、それぞれの種には豊かな環境を整備する
- 動物を健康的に飼育管理し、行動的で魅力的な展示を実現する(動物の取り扱いについては別記参照)
- 動物解説や参加型イベントなど、ソフト面のサービスを充実させる
- 国際的な取組みの拡充に参画する(国際的な繁殖協力、途上国との協力など)

#### 別記 動物の取扱いに関する方針

飼育動物の扱いは、動物園としての最重要事項であるため、取扱いの方針を特記する。

- 動物園という限られた環境の中でも、飼育動物が幸せに暮らせる動物園を目指すことを基本方針とする
- 今後策定する新たな基本計画では、動物福祉に関する方針や衛生面や動物の飼育管理に関する方針を定め、環境エンリッチメント、ハズバンドガリートレーニング、作業手順のルール化などを推進する

##### ② 教育関連サービス

- 環境教育、科学教育、命の教育、ESD(持続可能な開発の教育)等の多様な教育ニーズに対応する
- 教育機関や地域の諸団体との連携を推進する
- ボランティアの活性化等により、動物解説等の事業を拡充・強化する
- 学術研究機関に動物園を研究のフィールドとして提供することで学術研究等にも貢献していく

##### ③ 飲食、物販等の周辺サービス

- 飲食、物販等は、動物園来園者の満足度を高めるための重要なサービスであり、動物園のブランド価値を高めるようなサービスを提供する
- オリジナルグッズの開発など、サービス提供事業者との連携を促進する
- 天王寺公園全体でのサービス機能の最適配置を行う

## (2) 園内のエリア構成の考え方

園内の整備計画は、今後策定する新たな基本計画の中で明確化していくこととしているが、整備の方向性は以下のとおり。

- ・ 園全体として、わかりやすい動線、統一感のあるデザインを目指す
- ・ ZOO21計画で整備した生態的展示は活かしつつ、老朽化した施設を計画的に改修して再配置する
- ・ 新エリアでの獣舎整備に当たっては、行動展示の要素を取り込みつつ、動物の魅力を発信する
- ・ 新エリアとして、ふれあいサービスを提供できるエリア(例:こども動物園)を配置する

## (3) 動物園運営の考え方

動物園の運営に当たっては、動物、施設、資金、人材といった限りある経営資源を適切に確保し、効果的に活用できる仕組みを確立する。

### ① 収支の改善

健全で安定した経営ができるよう、収入の増加を図り、運営費の公費負担率の縮減など収支の改善を進める。

- ・ 魅力ある展示・イベントによる来園者の増加と、業務の総点検による運営経費の削減に取組み、収支の改善を目指す
- ・ 動物園の魅力向上を図るため、民間活力の導入について調査検討を進め、柔軟に対応することで集客力の向上、運営経費の削減に努める
- ・ 寄付や協賛による収入を支える仕組みの構築、広告を活用した収入など企業との連携を進め入園料外収入の増加を目指す
- ・ 獣舎整備等の投資的経費については、投資効果や収支計画を検討のうえ実施していく

### ② 市民や企業との協働

今後の天王寺動物園においては、動物園に関心を持つ市民、NPO、企業等の支援を得つつ、市民とともに動物園を作り上げていくという考え方の下、運営を進める。

- ・ 天王寺動物園とその飼育動物は、大阪の共有財産である。多くの大阪人に「私達の動物園」と思ってもらい、大阪人の誇りとなる動物園を目指す
- ・ ボランティアについては、動物解説だけでなく、イベントの企画運営、グッズの企画制作、案内パネルの制作など、市民参画が期待される分野は多い。多様な市民参加を得て運営できる動物園を目指す
- ・ NPOの活動も活発化しており、様々なグループと積極的に協働していく
- ・ 動物園が役割を果たしていく上で、民間企業との協力協働は不可欠である。民間企業の社会貢献活動の場、知名度向上・顧客獲得の場としての動物園利活用についてどのようなスキームが成り立つのか調査検討を進め、柔軟に対応する

### ③ 組織体制

今後めざす動物園運営の方向としては、集客施設を経営する組織として飼育スタッフのみならず、マネジメント部門にもスキル、専門性を有するスタッフを継続的に配置し、柔軟かつ効果的な事業実施体制を構築すべきであり、以下について検討を進める。

- ・ サービスの向上や集客向上への取り組みの充実として、企画機能、営業機能を充実させる
- ・ 動物園のトータルイメージの構築のため、企画広報やデザインなど幅広い事業分野に関する全体的なコーディネートを行える体制を構築する
- ・ デザイン戦略の確立のため、サイン、印刷物など統一的なデザイン戦略を確立し実施できる体制を構築する
- ・ 植物の管理についても適切な体制を構築し、幅広い生物に対する専門性を発揮できるようにする
- ・ 組織全体の経営形態については、地方独立行政法人による経営を見据えつつ、今後の経営形態を検討していく
- ・ 動物園改革の状況を外部の目線でチェックする体制を構築する

### ④ スタッフの育成

スタッフの人材育成については、基本的な方針を定め、基本計画の中で位置付けることとする。その際の主な留意点は以下のとおり。

- ・ スタッフの能力向上及び情報収集のため、国内外の動物園等の実査、国内外での研究会等への参加、国内外の野生生息地での情報収集や保全活動への参加といった機会を確保する必要がある。実査等の結果は、園内で共有するとともに、展示や解説にフィードバックして来園者に還元することとする。また、国内外の各種活動への参加を通じて、人的ネットワークの構築も進める
- ・ スタッフの派遣のみならず、外部講師を呼んで動物園を取り巻く最新動向を把握する
- ・ CS(顧客満足度)向上のためには適切な接遇が重要となることから、研修を充実させるなど、スタッフの能力向上を図る

## (4)コレクション計画について

### ア. 現状の課題とコレクション計画の必要性

現在の天王寺動物園における、コレクションの維持管理に関する課題は、以下のとおり。

#### <環境要因>

- ・ほとんどの動物種は野生からの入手が不可能である
- ・金銭で購入できない希少種が急激に増加している
- ・検疫や取引規制により、海外導入の難易度は高まっている
- ・国内外の飼育施設間ネットワークを通じた飼育動物のやりとりが飼育動物確保の重要な手段となっている

- ・多くの希少種では、広域的かつ組織的な個体群管理が策定されており、これに基づく動物移動が行われている
- ・安定的に飼育し、繁殖を促進するために、知識や技術の蓄積、普及が必要とされている

#### <主体要因>

- ・飼育のための経営資源(資金、人員等)の投入が継続的に減少
- ・都心立地で面積が限られており、飼育スペースの拡張が困難
- ・長期的視野に立った飼育動物の選定が行えていない
- ・動物入手ルートが限られている
- ・飼育動物の種数・個体数が継続的に減少している
- ・高齢個体が増加している
- ・希少種でも単性飼育などで繁殖に取り組めない種がある
- ・飼育や繁殖に関する情報の収集、実地適用が組織的に進んでいない

これらの課題を克服するためには、以下のような対応が必要となる。

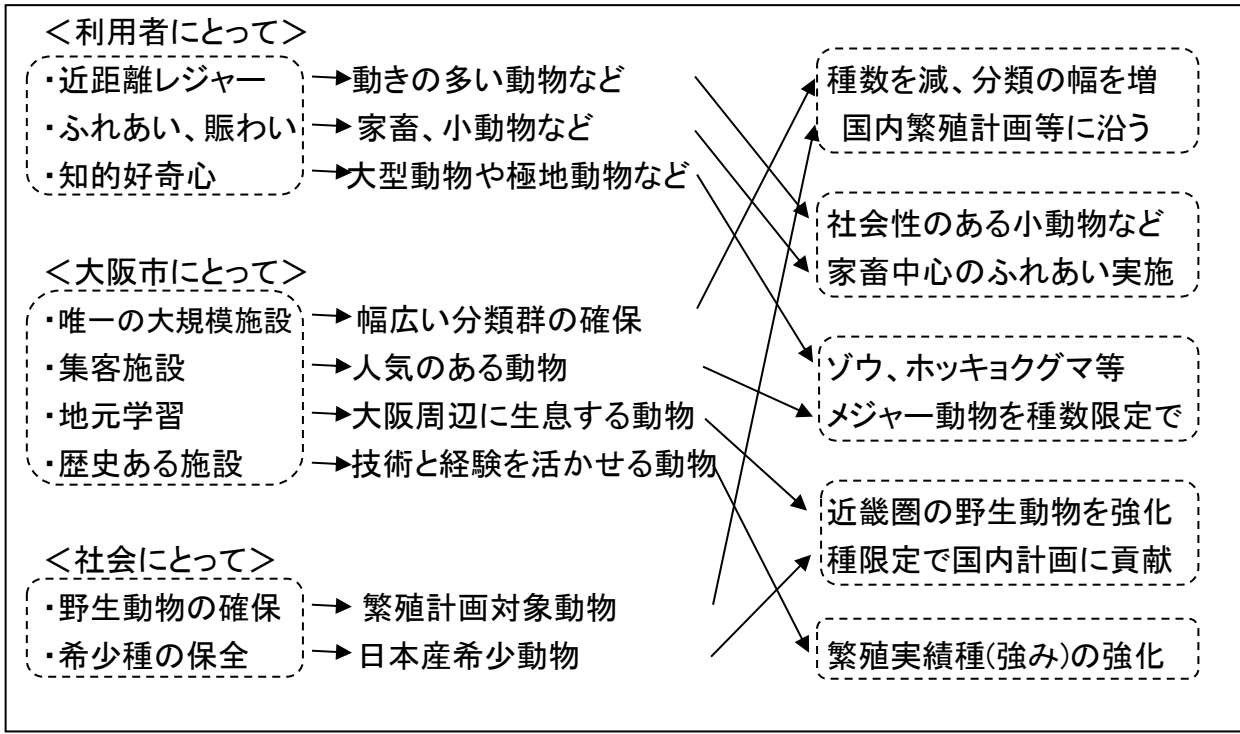
- ・コレクション計画の策定  
長期的視野に基づく飼育動物の選定 / 資源の有効な配分
- ・飼育動物の繁殖の促進  
飼育・繁殖技術の向上 / 学術的な知見の収集、蓄積
- ・飼育動物の導入の促進  
国内外の組織や施設との連携の推進 / 国内外の希少種保全プログラムへの取り組み強化

#### イ. 計画策定において考慮すべき点

コレクション計画の策定にあたり考慮すべき点は、以下のとおり。

- ・継続性の確保  
動物を持続的に入手しなければならない(寿命がある)  
⇒継続的な繁殖もしくは導入が可能であるか
- ・専門性の確保  
動物園特有の事業のために飼育しなければならない(展示、教育、保全、研究など)  
⇒飼育の目的は適切であるか
- ・協調性の確保  
単独施設での飼育動物の維持は不可能  
⇒国内外のプログラムに沿っているか
- ・実現性の確保  
飼育動物の維持には資源(スペース、資金、労力)が必要  
⇒必要とされる資源を適切に確保、分配できるか

これらを踏まえて、利用者、大阪市、社会のそれぞれにとってのコレクションの意義を整理するとともに、天王寺動物園における主要な飼育動物種の選定の考え方は、以下のとおり整理した。



ウ. コレクション計画

①主な推進種、撤退種

イで示した考え方を踏まえ、天王寺動物園で今後優先的に取り組む種についての整理を行った。主な推進種と撤退種は以下のとおり。

綱	目 etc 分類	種(亜種)和名	方針	理由
<b>推進種</b>				
哺乳	霊長	シシオザル	飼育拡大	種別調整担当、国内計画に沿う
哺乳	食肉	ホッキョクグマ	繁殖推進	繁殖推進している希少人気動物
哺乳	蹄脚	カリフォルニアアシカ	繁殖推進	繁殖実績を活かす、人気種
哺乳	奇蹄	ヒガシクロサイ	繁殖推進	繁殖推進している希少人気動物
哺乳	長鼻	アジアゾウ	導入推進	施設充実、希少人気動物
哺乳	齧歯	モルモット	導入推進	ふれあいコーナー新設
哺乳		リスザル,リス等の小型哺乳類	導入検討	人気種
鳥	ツル	ナベヅル	飼育拡大 繁殖推進	種別調整担当 繁殖経験を活かす
鳥	ツル	ソデグロヅル	繁殖推進	繁殖技術を活かす
鳥	ペンギン	フンボルトペンギン	現状維持	繁殖推進している希少人気動物
鳥	猛禽	ニホンイヌワシ	繁殖推進	国内計画に沿う 繁殖実績を活かす
鳥	雉	コサンケイ	繁殖推進	国内計画に沿う 繁殖実績を活かす
鳥	雉	ライチョウ	繁殖推進	国内計画に沿う 最終的にはニホンライチョウ
鳥	鸚鵡	インコ・オウムsp	5年をめどに導入検討	新規分類群の導入
爬虫	ワニ	ヨウスコウワニ	繁殖推進	国内計画に沿い、種別調整担当
哺乳	食肉	ホンドタヌキ	現状維持	近畿圏生息、教育効果期待
哺乳	偶	ニホンジカ	一定数確保	近畿圏生息、教育効果期待

	蹄			
哺乳	偶蹄	ニホンイノシシ	5年をめどに導入検討	近畿圏生息、教育効果期待
哺乳	食虫	コウベモグラ	長期飼育展示技術確立	近畿圏生息、分類群充実に貢献
鳥	水鳥	キンクロハジロ	繁殖推進	近畿圏生息、繁殖実績を活かす
鳥	水鳥	カルガモ	繁殖推進	近畿圏生息、繁殖実績を活かす
鳥	水鳥	オシドリ	繁殖推進	近畿圏生息、繁殖実績を活かす
両	有尾	イモリ	繁殖推進	近畿圏生息、教育効果期待
<b>撤退種</b>				
哺乳	有袋	コアラ（南方系）	自然減による撤退	維持困難
哺乳	霊長	ドリル	自然減による撤退	国内計画対象外で、維持困難
哺乳	霊長	ボルネオオランウータン	撤退（導入しない）	個体確保困難
哺乳	食肉	ヒョウ（亜種不明）	撤退（導入しない）	国内計画に沿わない
哺乳	食肉	ベンガルヤマネコ	自然減による撤退	個体確保困難
哺乳	食肉	メガネグマ	自然減による撤退	個体確保困難
鳥	走鳥	キタジマキーウイ	自然減による撤退	個体確保困難
鳥	ペンギン	オウサマペンギン	5年をめどに撤退	近縁種に絞る

### ③ 上記以外の種についての方針

上記以外の他の種についても、現有種や候補種を対象とした今後の方針の一案を示す。（参考資料2）